

2月16日（月）平和活動の組合員ネットワーク組織が始動

「コープさが“平和のはな” ネットワーク」設立のつどい

～平和学習会「ヘイトスピーチが映し出す日本の今」を同時開催～

いま憲法の平和主義の理念が危うくなってきたことに対して何か行動を起こすべきと考える有志が12月に準備世話人会を立ち上げ、開催を準備してきました。平和の問題を単に「戦争がないこと」ととらえるのではなく、幅広く平和を考える場を作りたいと考えました。最初の学習の場として、世界的に広がりつつあり、日本でも在日韓国・朝鮮人へ向けられているヘイトスピーチの問題について詳しい佐賀大学文化教育学部准教授の吉岡剛彦氏に講演を依頼しました。

学習会では、在日韓国・朝鮮人がもともと戦前日本の植民地政策によって生み出され、戦後の朝鮮戦争による混乱などによって帰国できず、差別を受け日本で生活を余儀なくされてきた史実があり、ヘイトスピーチの理由とされる在日特権が根拠のないことであることを学びました。

そして、世界的に広がる排外的なヘイトスピーチが、社会的弱者の一部が別の弱者を見つけて攻撃する現象であり、人権問題として国際的にも何らかの規制の必要性が求められているものの、安易な法律によって規制することで、他の言論の自由までも抑圧しないように注意しなくてはならないということでした。

ヘイトスピーチの問題で、日本国憲法の前文にうたっている“平和的生存権”（「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」）の大切さを再認識することができました。

学習会後に、平和ネットワーク設立のつどいを行い、グループで昼食交流をとおしてそれぞれの平和への想いを話し合いました。またネットワークの名称も、投票により多数決で「コープさが平和のはなネットワーク」と決定しました。

当日は30名の参加者があり、「コープさが平和のはなネットワーク」の登録申し込みは23名となりました。

これから、力強いメンバーのパワーで充実した学習・集会の場を作っていけそうです。



（文責・コープさが生協 総務部組織企画 牧）